

博報財団 第11回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	KLOBUKOVA Natalia Fyodorovna(クローブコヴァ ナターリア フョードロヴナ)
在住国名	ロシア
所属・役職	チャイコフスキー・モスクワ音楽院「世界の音楽文化センター」
招聘回(招聘研究期間)	第11回(2016年9月1日～2017年8月31日)
受入機関	国際日本文化研究センター
招聘研究テーマ	日本における正教会の聖歌とその発生、発展、特徴
研究目的	研究の主な目的は、日本正教会の詠唱の歴史と現代を研究することです。具体的には、日本の正教会を訪問し、実際に歌を勉強したり、歌を聞いたり、録音したり、資料を研究したり、司祭、教会員や専門家と話をすることが地域の目的です。
<p>研究成果概要研究成果概要：</p> <p>(1) 52教会への訪問(東京大主教々区の17教会、西日本主教々区の12教会、東日本主教々区の23教会)。土曜日の前晩祷及び日曜日の聖体礼儀への参加。</p> <p>(2) (2)礼拝時における聖歌の録音55件及び礼拝の一部のビデオ撮影23件。</p> <p>(3) (3)現在の教会における聖歌の歴史、聖歌の特徴、聖歌隊指揮者及び聖歌隊員の前途などについて、聖職者、司祭達及び教会参拝者へのインタビューを実施した(大主教セラフィム(仙台),神父クリメント(仙台),神父ステファン(前橋),神父グリゴリイ(名古屋),神父ディミトリイ(小田原),神父ルカ(石巻),神父マルコ(一関),神父グリゴリイ(横浜),神父ゲオルギイ(大阪),神父エフレム(神戸),神父ナファナイル(徳島),神父グラシム(東京),神父ニコライ(函館))。</p> <p>(4) 楽譜集による調査、聖歌の楽譜の研究、聖歌隊員としての礼拝参加による理論的及び実践的な正教会聖歌の研究。一声と四声の楽譜集(明治時代から今まで)。</p> <p>(5) マリア松島純子氏(大阪)、リュボフ田中博子氏(東京)、エカテリナ加藤津也子氏(神戸)、マリコ竹中氏(大阪)イゴリ清水秀行氏(神戸)、マタイ石川氏(東京)、プシィリサ・ヴォルカノヴァ氏(東京)、イリヤ・ハリン氏(名古屋)、スヴェトラーナ山崎瞳(函館)、イサアク折田真樹氏(東京)ら日本正教会の聖歌の専門家、歴史や音楽の研究者達へのインタビュー。</p> <p>(6) 名古屋正教会、大阪正教会、小田原正教会、仙台正教会参拝者を対象としたロシア正教会の聖歌についての講演。 日文研のイブニング・セミナー、日文京都市立芸術大学、青森大学研究者と学生を対象とした日本正教会の聖歌の歴史についての講演。</p> <p>(7) 静岡正教会の成聖式に聖歌隊員として参加。全国の正教会に礼拝式に参加。</p>	
<p>展望:(1)ロシアの科学会議での日本正教会の歌についてのレポートを作成する。</p> <p>(2)この研究の結果を講義の実践とさらなる研究に活用する。</p> <p>(3)日本正教会の歌の歴史、理論、実践についてのモノグラフを書く。</p> <p>(4)日本の教会の歌の問題に対するロシア正教会の意見を引き付ける。</p>	